

## まちなかの印象を聞きました



子ども図書館を訪れていた神村 久美子さん  
三俣町三丁目

前橋のまちなかは子育ての環境が充実していますよね。特に前橋プラザ元氣21は利用者が多いのでここを拠点に活気が出ればいいなと思っています。

群馬医療福祉大4年 松本 和興さん  
表町一丁目



大学がまちなかにあるので、ランチを食べによく出掛けます。ここ最近新しいお店がオープンしているので気になっています。もっと若い人も入りやすい店が増えたらいいと思います。



買い物で訪れていた佐藤 ますみさん  
亀里町

昔からまちなかに来ることが多く今も買い物に来ますが、昔に比べるとお店が閉まっていて寂しい感じがします。昔のようにもう少しお店が増えるといいですね。



# まちなかに再びにぎわいを キーワードは 新たな価値の創造

これまでまちなかの人々にはにぎわいづくりや活性化を目指し、さまざまな取り組みを実施。諦めずに再生への機運を高めてきました。一方、本市では総合計画などで、中心市街地の活性化を市全体の重点事業に位置付けると共に、中心市街地活性化基本計画を策定し、大型店舗の跡地利用などの具体的な施策を模索してきました。そして、前橋プラザ元氣21やアーツ前橋の整備などが進んでいます。

再びたくさんの人に訪れてもらえるような場所にするためには、買い物をする以外に「まちなかに行きたい」と思わせる、新たな価値を創り出すことが必要だと方向付けました。そのためには、行政のみならず、民間や市民と一緒に取り組んでいくことが必要です。そこで、それぞれが同じ目標に向かって取り組めるよう、活性化基本計画の中でまちづくりの基本方針を設定。まちの文化芸術交流、職住近接性、経済活力、デザイン力の4つを高めることにしました。この方向性を踏まえ、土地の活用や道路の整備、空間デザイン、出店支援など、さまざまな面でまちなかに新たな価値を創り出す取り組みを進めています。

多くの人がにぎわいを望んでいるのに、まちなかに行く人は少ない…。このギャップを埋めるにはどうしたら良いのか。まちなかの衰退が問題視され始めてから、この現状をどうにかしなければならぬと、行政やまちの人々は長年にわたりさまざまなことに取り組んできました。



### 中心部らしい場所に

千代田町二丁目  
自治会長  
飯塚 伸彦さん

町内を中心に再開発の検討が行われていますが、一番の課題はいかに前橋にフィットしたのと同じことができるか。整備して終わりではありません。ここに市民は何を求めているのかをしっかりと把握し、前橋の中心部らしい場所になれば。昔のまちなかは迷子になるほどの人ばかりで、デパートで買い物を楽しんだり、大きなテレビをみんなで見たり、楽しかった思い出があります。そんなワクワクできるような場所になってほしいですね。



### 頑張る人を応援したい

まちづくり公社  
まちづくり部長  
岡村 政幸さん

まちづくり公社では中央イベント広場や前橋テルサ、駐車場などの施設管理、イベント主催者への支援をしています。今までは施設管理が主な業務でしたが、今後は情報発信やイベント開催、まちなかの環境整備など、まちづくりの業務に直接関わっていくことを目指しています。私たちが特に大切にしているのは、イベント主催者のやる気と熱意を支えること。イベントの度に見えてくる反省点を改善しながら、頑張る人を支えていきたいです。



### にぎわい創出をサポート

にぎわい商業課  
高橋 俊紀

にぎわい商業課では、空き店舗の利活用を考えている人向けに改修費用の一部助成をしています。また、既に事業を行っている人にも改修費用の一部助成を行っています。本年度は、昨年を上回るペースでまちなかへの出店に関する相談が寄せられています。窓口では、「最近まちなかに動きが出てきたね」と期待の声を伝えてくれる人も増えてきました。まちなかでチャレンジしたいと考えている人はぜひ気軽に相談してください。